



European Federation of Pharmaceutical
Industries and Associations

ワクチン定期接種化のプロセス ～欧州の経験～

欧州製薬団体連合会

2017年5月29日

1. 欧州製薬団体連合会 (EFPIA Japan) の紹介と
取り組みについて
2. ワクチンの定期接種制度 欧州の視点
(諮問機関を中心に)
3. ドイツにおける技術諮問機関 (STIKO)

日本で事業展開している欧州の革新的製薬企業を代表する団体であり、研究開発志向型の製薬企業24社が加盟している。革新的な医薬品・ワクチンの早期導入を通じて、日本の医療と患者さんに貢献することをめざしている

会員会社:

アクテリオン ファーマシューティカルズ
ジャパン株式会社

アストラゼネカ株式会社

バイエル薬品株式会社

ブラッコ・エーザイ株式会社

中外製薬株式会社

CSLベーリング株式会社

フェリング・ファーマ株式会社

ガルデルマ株式会社

GEヘルスケア・ジャパン株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

ゲルベ・ジャパン株式会社

イプセンファーマ駐在員事務所

ヤンセンファーマ株式会社

レオ ファーマ株式会社

ルンドベック・ジャパン株式会社

メルクセローノ株式会社

マイランEPD合同会社

日本セルヴィエ株式会社

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

ノバルティス ファーマ株式会社

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

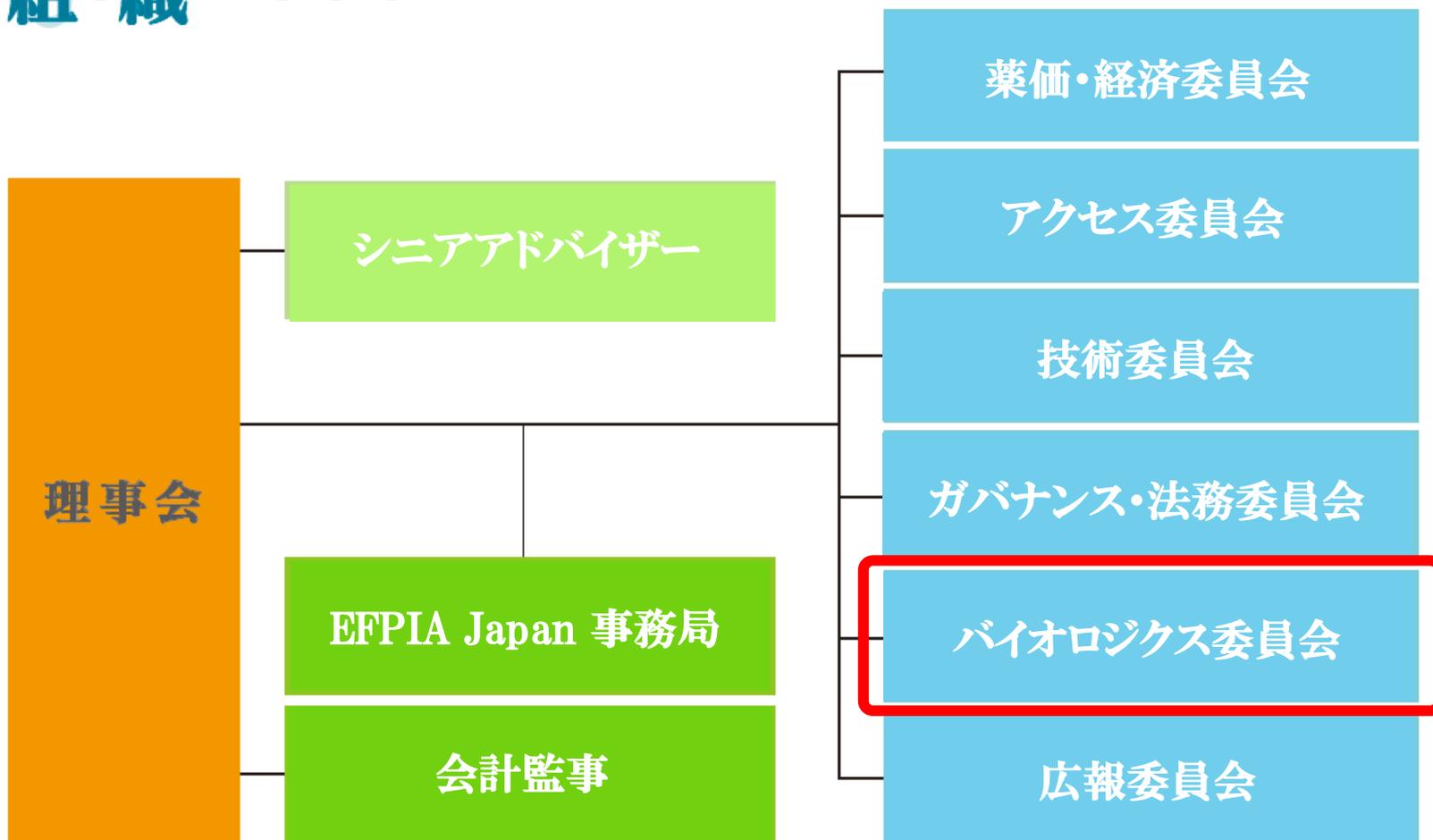
サノフィ株式会社

シャイアー・ジャパン株式会社

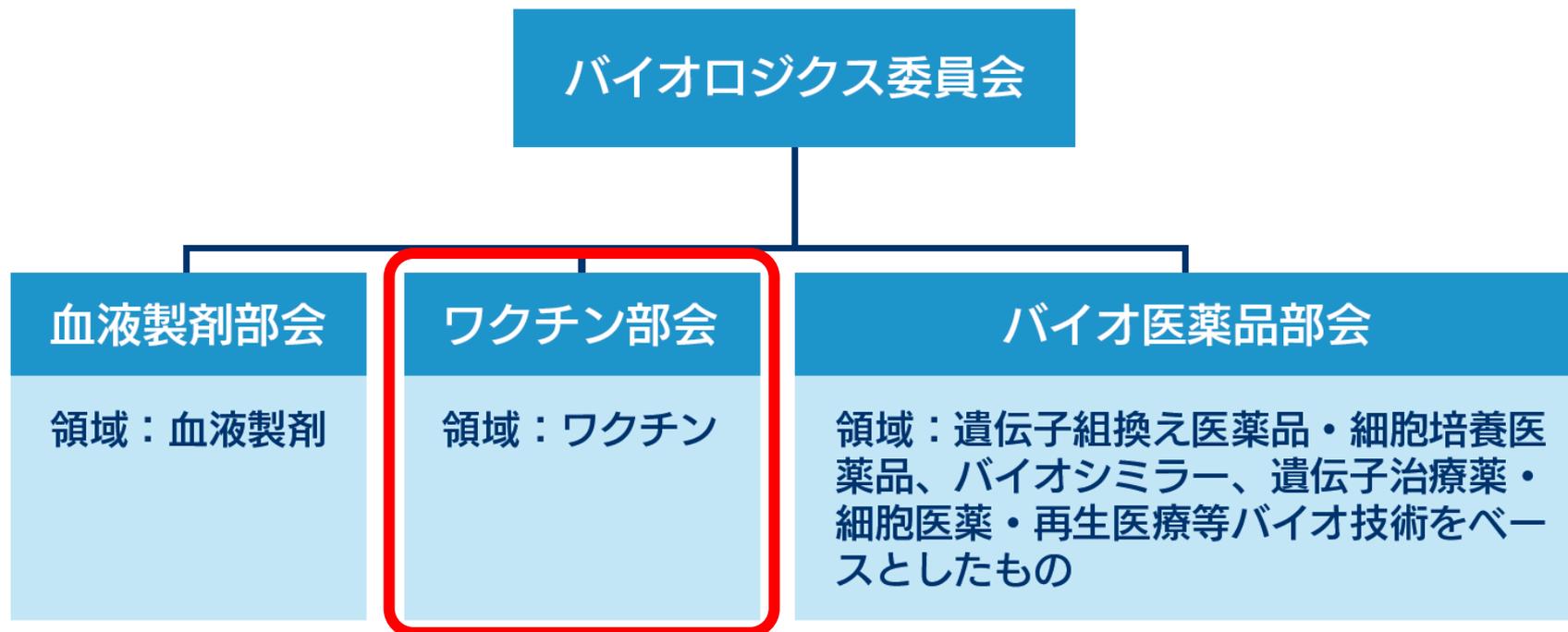
ユーシービー・ジャパン株式会社

(2017年1月現在)

Organization
組織



組織図



ワクチン部会：近年、海外の革新的なワクチンが日本で承認・使用されるようになり、海外とのワクチンギャップは大きく改善した。しかし、依然として日本で使用できない小児用ワクチン等があることやワクチン接種率が低いことなど、制度面を含めて不十分な点もある。これらの問題を解決するための提案を行い、より良いワクチンをより早く、より広く、日本の医療現場に届けるべく活動をしている

最近、日本のワクチン政策のあるべき姿について記載されたものとしては、厚労省から2014年3月に告示された「予防接種に関する基本的な計画」と、同省から2016年10月に公表された「ワクチン・血液製剤産業タスクフォース 顧問からの提言」があげられる

いずれも「予防接種・ワクチンで防げる疾病は予防すること」という基本理念が元であり、基本計画には、いわゆる「ワクチン・ギャップ」の解消と共に、定期ワクチンの接種率の向上などが謳われている。EFPIA Japanも、これらの実現に向けては、努力と協力を惜しまない

efpia* 予防接種に関する基本的な計画への貢献(3)

研究開発や感染症対策の強化については、会員会社ごとに国内の会社とも連携しており、また提言については、事案ごとに国内外の関連団体とも連携している

EFPIA Japan 提言や普及啓発活動の例

2008年3月	ワクチン・ギャップの見解発表
2010年9月	第7回医薬品評価フォーラムにて規制の問題提起
2011年11月	メディアを通じた、ワクチンに関する適切な情報提供の重要性や同時接種の有用性などの訴求。地方紙、業界紙、ネットニュースに掲載
2012年7月	行政刷新会議(規制・制度改革)にて、ワクチン・ギャップの解消を提言、閣議決定される
2012年、2013年 2015年	他の業界団体と共に、感染研シンポジウムへの協力
2016年7月	ワクチンの安定供給に関する見解発表
2017年2月	全国紙の取材を通じた、ワクチン・ギャップ解消の進捗と、混合ワクチンの有用性の訴求

ワクチンを定期接種化することは、接種率向上に非常に有効な手段である。しかし、定期接種化するためのプロセスについては、2015年5月に基本方針部会で提示された新しいスキームの運用以降、手順や、審議にかかる時間など、いくつか課題が見えてきたと考えている

また、任意のワクチンであっても、特定の集団に対して積極的な勧奨を通じて接種率を向上させることも、前述の理念を鑑みると必要な手段であると考えられる

ワクチンの定期接種化や、勧奨について何十年にもわたって諮問機関を運用している欧州における事例が、上記の課題を考える上で参考になると考え、今回、欧州の専門家に直接解説頂くことを趣旨とした